

JR登別駅のエレベーター等の設置

■ 現状

JR登別駅は、全国的に有名な登別温泉等との交通の要衝であり、年間約400万人もの観光客が訪れる登別観光の玄関口として重要な役割を担っています。

現状、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光需要が大幅に減少していますが、近年は、観光客入込数が増加基調で推移する中であって、訪日外国人旅行者の増加が顕著であり、JRを利用したFIT（海外個人旅行）が多く、特に春節やさっぽろ雪まつりの時期には、駅舎に入りきれないほどの観光客が登別市を訪れています。

しかしながら、JR登別駅にはエレベーターが設置されておらず、大きな手荷物を抱える観光客等、駅利用者が階段の昇り降りに苦慮している状況にあり、観光関係団体からもエレベーターの設置について要望を受けています。

依然として、同感染症の影響により国内外を問わず観光による移動を自粛する状況にありますが、隣接する白老町に民族共生象徴空間（ウポポイ）が開設されるなど、JR登別駅の利用者は今後回復、増加することが期待される中、北海道を代表する観光地として受入環境の充実を図るため、施設の現況や安全性等を踏まえ、JR登別駅へのエレベーターの設置に向け、JR北海道と協議を進めています。

■ 課題

登別市では、（一社）登別国際観光コンベンション協会との連携の下、JR登別駅において、来訪者へのおもてなしとしてポーターサービスを実施し、これにより駅利用者の負担軽減を図っているものの、多くの観光客、とりわけ旅行日数が長期にわたる訪日外国人旅行者は、大きな手荷物を抱えながら、駅構内の階段の昇り降りを余儀なくされている状況にあり、利便性と安全性の両面で課題となっています。

JR北海道との協議では、JR登別駅が多く数の観光客に利用される特性を持ち、登別温泉等へのアクセス地点として重要な役割を担うといった観点から、エレベーター設置の必要性が認識されているものの、本事業には多額の費用と時間を要することなどから、実施にあたりJR北海道と慎重に協議を進めているところです。

■ 要望内容

- JR北海道によるJR登別駅への跨線橋の新設、エレベーターの設置に係る補助制度の充実及び財源措置

■ 事業効果

- 駅構内のバリアフリー化による利便性の向上
- 駅構内の安全性の確保と事故の未然防止
- 受入環境の充実によるリピーターの獲得

